

特56-868



1200800507173



始



1436-868

書林

江戸京橋銀座四丁目

駿河屋重五郎

再版

こよみ便覧

こよみの中は、下段より、其外、蓋裏の口は、まゝ、
かゝる事、のゝ多し、故、つまびやく、本、小、あ、り、て
人、乃、は、は、し、を、解、毎、年、の、こ、よ、み、を、引、あ、て、る、人、
也、小、冊、八、葉、小、冊、代、の、字、も、多、し、

そ日俵の上を蝕するふよつて日のくちから華のどくどくとふたふたのわり

月蝕 月とく八月月相むるふよりよふのどく周天二百六十度有華と日八月ふ

一度と日月の相むるふよりよふのどく周天二百六十度有華と日八月ふ

のどく星夜中その月の大陰乃極も光明なり大陽のひかりさうけて

て蝕せしむるありの交ある月日月の交ある日日月の交ある日日月の交ある

かゆふ日月光とて蝕すこれ日月とて蝕すこれ日月とて蝕すこれ日月とて蝕す

と八月とて蝕すこれ日月とて蝕すこれ日月とて蝕すこれ日月とて蝕す

乃半の日の盈満あり月は暹疾あり故に半の日の考論とて推

考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

日とく月とくハ方きり年一とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

まがりの来つしこひさか方一とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

年中九四氣 十二節 昼夜乃刻數ハ曆面を見べ

立春正月節 陽氣地よふとる一雪氷にけりあり

雨水正月中 陽氣地よふとる一雪氷にけりあり

啓蟄二月節 陽氣地よふとる一雪氷にけりあり

春分二月中 日天の中をけて昼夜とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

清明三月節 日天の中をけて昼夜とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

穀雨三月中

立夏四月中

小滿四月中

芒種五月中

夏至五月中

小暑六月中

大暑六月中

立秋七月中

處暑七月中

白露八月中

秋分八月中

寒露九月中

霜降九月中

立冬十月中

小雪十月中

大雪十月中

養ありて百穀を生化すれはなり

なりゆきあり

万物盈満すれは草木枝葉あり

芒ある穀るは稼穡する時なり

陽はつふ極一又日の長たのいづるなり

大暑身むるは暑なり

暑氣いづるは暑なり

秋の氣いづるは秋なり

陽氣の中をけて昼夜とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

陰氣の中をけて昼夜とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

陰氣の中をけて昼夜とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

陰氣の中をけて昼夜とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

陰氣の中をけて昼夜とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

陰氣の中をけて昼夜とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

陰氣の中をけて昼夜とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

陰氣の中をけて昼夜とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推考とて推

右一帖ハ諸曆書と參考し曆小引合見女の見ゆと
かたがたの國字を解して其吉凶と云ふ一冊は
一三事ハ先生著述乃曆日詳解と見ゆべし

東都劉卜子先生門人

太玄齋校訂



寛政十戊午年十一月吉祥日再版

終